

連載45
内海善雄の
(ITU前事務総局長)
やぶ睨み
「ネット社会」論

日本人のiPhone好きが
日本のICT産業を苦境に陥れている!!

とうとうドコモがiPhoneの販売をす
るようになった。ここ数年間、アンドロイ
ド・スマホしか売らないドコモが、先行して
販売するソフトバンクとKDDIにシェアを
奪われ続け、仕方なく選んだ苦肉の策だ。そ
の結果、ドコモに依存していたNECやパナ
ソニックなどの日本の端末メーカーは、全面
的にスマホ事業から撤退を余儀なくされてい
る。もちろん、通信機事業は端末製造だけで
はなく、ネットワーク建設関連の重要な部分
がある。しかし、携帯電話がスマホに置き換
わり、PCがタブレットに置き換わっている
今日、スマホ事業からの撤退は致命的である。
それだけではない。ドコモがiモードを中
心に築き上げてきたコンテンツや「ワンセグ」
「お財布携帯」「NOTTV」など、日本独自
のサービスはiPhoneでは使えない。

世界に先駆けて開発してきた、これらの誇
るべきサービス資産も価値がなくなるのであ
る。また、dシヨップやdビデオなど、アン
드로이드端末に初期設定されているドコモ独
自のサービスもおそらく使われることがなく
なり、アップル・プラットフォームのサービ
スの軍門に下ることになるだろう。

なぜ日本ではこのように魅力的なアンドロ
イド・スマホが嫌われ、iPhoneが選ば
れるのだろうか。世界に先駆けて高度なサー
ビスと端末を開発したと自負するドコモや日
本メーカーの関係者の心情はいかなるものか、
察するに余りある。

世界ではアンドロイドが主流

しかし、iPhoneが人気を博し、圧倒
的なのは日本だけの現象のようである。世界
ではすでにiPhone神話は終了し、アン
드로이드端末が主流である。

冷静な比較なくiPhone選択

しかし、両端末を冷静に比較し、判断でき
る人はほとんどいない。そもそも両方の契
約をして、使いこなしてみない限りは不可
能だからだ。大概の人は、「皆がiPhone
を使っているから」「格好いいから」「お店の
人が薦めるから」「割引が他店より大きいから」
などの理由で、冷静に比較することもな
く選んでいるにちがいない。

ところが、日本では事情が異なる。日本の
アンドロイド端末は、従来の「お財布携帯」

営業する代理店では、多数あるアンドロイ
ド端末の販売には説明に時間を要して効率が

悪く、iPhoneの販売のほうが数倍も営
業効率が高いという。そのため、自然とiP
honeを薦める。この不利な面を考慮した
ドコモは最近、サムスンとソニーの二つのブ
ランドのアンドロイド端末だけに絞り込む作
戦（ツートップ作戦）により対抗したが、効
果は薄かったようである。今となっては、代
理店の営業効率などは関係しないほどのiP
hone人気なのだ。

大の大人が三日間も徹夜の行列をして新型
iPhoneを買うさまは常軌を逸している
が、その徹夜組にアップル・ジュースを配る
電話会社社長の姿をテレビ報道して煽るのも
異常だ。皆がiPhoneというブランドを
売ってお祭りをし、お客も単にブランドを買っ
ているにすぎない。パリのルイ・ヴィトンの

店が日本の女子学生やおばちゃん族の団体さ
んの集団で溢れ返る状況に、金持ちの常連客
は眉をひそめ、店主は苦笑いするのとそっく
りの、日本人のブランド好きだ。
ならば、日本で負けたメーカーはアンドロ
イド端末が売れる海外で販売をすればよいの
だが、サムスンとの価格競争に太刀打ちでき
ないからと撤退するという。工場や市場を世
界で展開するグローバル経営時代に、高級端
末製造の技術がありながらコストで太刀打ち
できないとはひとえに日本メーカーの怠慢で
ある。メーカー経営者の言い訳は通用しない。

日本人は、明治維新で高度な西欧の文物に
驚き、敗戦で米文化に圧倒された経験で、
欧米の舶来物が素晴らしいという固定観念か
らどうしても抜けきれない。本当に良いもの
を見る目とセンス、さらには、他人の目を気
にしない自主性を身に付けたいものだ。
このままでは日本のICT産業が壊滅的に
なることが明らかである。ICT産業は、単
に経済産業面だけでなく、安全保障上の観点
から国を挙げてその維持発展に取り組みな
ければならない。そのためには、消費者の気
分や趣向にまで立ち入らなければならず、政
治的なキャンペーンが必要である。スマホ事
業からの撤退問題は、従来から取られている
科学技術振興策や、各種のインセンティブ減
税などの産業政策ではまったく役に立たない
ことを示しているからである。

科学振興策だけでは解決できない

しかし、日本の利用者もこの辺りで、もう
少し賢くなってもよいのではなからうか。必
要もない機能が付加された高額品や、高級ブ
ランド物を無批判に選ばず、本当に良いもの
を自分で判断することが求められている。十
数年も前、香港でエスコートしてくれた若い
女性（香港政府の役人）は、「自分は毎年、自
由が丘に買い物に行く」と話してくれた。
その時、海外に長く住んでいた筆者は、
東横線沿線の住宅地にいったい何を買い
に行くのだろうかという理解ができなかった。
女性いわく、「日本にはセンスのいいもの
がたたくさんある。香港は敵わない。な
んで、日本人はセンスの悪い香港に買い
物に来るのだろうか？」



内海善雄(うつみ よしお)
1942年香川県高松市生まれ。東大法
学部卒。東芝を経て66年郵政省(現
総務省)入省。電気通信の自由化など、
通信放送政策を長く担当。98年
国際電気通信連合(ITU)事務総
局長就任。現在は一般財団法人「海外
通信・放送コンサルティング協力」
理事長。IEEE名誉会員。

